

自立した主権者 をめざして



Vol.18 民主主義の復元力

KEYPOINT

- 一灯照隅 吉田の投稿について思うこと
- 生活や活動の中で二項対立に直面したことはありますか？

SUMMARY

ロシアのウクライナ侵略のニュースが毎日流れています。私たちは哀しみ、憤り、戦争はいけないとの思いを募らせていますが、しかしどこか他人事のように感じている節もみうけられます。なぜ日本はこうした「民主主義の危機」に対して共感することが難しいのでしょうか。



近代の民主主義の価値とは？

ウクライナのキスリツァ国連大使は国連総会において、「ウクライナが生き残らなければ、次に民主主義が陥落しても不思議ではない」と述べました。ウクライナだけではなく、香港、ミャンマー、台湾と、民主主義を命懸けで守る、勝ち取ろうとする闘いが世界各地で続いています。命を賭してまで得ようとする民主主義の価値を、私たち日本人は理解できているようにあまり感じられません。なぜなら、日本の民主主義は、自らが望んで勝ち取ったものではないからです。

「雨傘革命」の活動家周庭（アグネス・チョウ）氏は、以前、「日本の皆さんがどれくらい幸せなのか分かってほしい」と発言しました。確かに私たちは自分たちの置かれている環境への自覚があまりないようです。日本の歴史では、明治維新で封建社会から近代社会へと変遷したようにとらえられますが、江戸幕府が倒されたのちに薩長土肥による幕府を近代化したような明治政府があり、戦後にGHQ（連合国軍総司令部）によって民主化されたことが実際です。自分たちが革命を

起こして手に入れたものではなく、誰かがつくってくれた民主主義が発端ですから、理屈ではわかっている、実際に「民主主義とは」といわれるとどうしても地についでいない感じになってしまうのです。

私たちが「民主主義」という言葉を使う場面を想像してみましょう。政党や政治家が期待するような姿勢をとらない時、日本の政治の仕組みを信頼していない時にこの言葉が多く出されます。しかし、「民主主義が危ない！」と言っている多くの人は、権利や自由には必ず義務や責任もついてくることを見落としがちです。自分たちの意に沿わない政治家や政府に対して「民主主義を無視している」という人は、その政治家を選挙で選んだのは自分たちであるという自覚がありません。つまり守るべき「民主主義」とは何であるかの定義がはっきりとしていないのです。

正解主義は民主主義を停滞させる

一方、民主主義を貫くことは難しいことでもあります。民主主義で何かを決めるのは、時間がかかるし、もどかしい。新型コロナウイルスの対応では、一党独裁の中国やベトナムはずば抜けて早かったことから、一見すると有事の際の瞬発的な意思決定に、民主主義はなじまないようにも思えます。しかし、3年も続くコロナ禍では、結局どこの国も完璧に感染を抑えるということはできていない状態です。

今回の新型コロナで国や社会が抱えている問題が顕在化しました。これから私たちはこれらの問題の解決策をさぐっていくこととなりますが、何が正解かわからないという状況の中では、民主主義のように社会に係わる問題について皆で決めて、皆でやってみる。選択が誤りだったとわかった時には新しい指導者を選び、別の方法を試すということを、自分たち自身が作り出せるという手法は柔軟性があります。しかし日本ではこうした利点よりも、確実な「正解」を出し、素早い解決を求めがちです。教育学者の荻谷剛彦氏は「勉強不足だから投票できない」という高校生の発言に驚かれたそうですが、今の日本の若年層は、「正解主義」が顕著だそうで、政治にも「正解」があると考えるようです。もちろんこれは若者だけでなく、日本全体の傾向でもあります。

私たちの民主主義を鍛える？

民主主義の強さは「しなやかさ」にあります。それは私たちの体の筋肉のようです。外からの圧力に対し筋肉は緊張して収縮をしますが、筋肉には復元力があるので元に戻ろうとします。しかし筋肉を維持するために鍛錬がなければやがて固く、細くなり、復元力を失ってしまいます。復元力を失うと、血液やリンパ液、脳脊髄液などの循環器系が機能せず、身体的ダメージを受けることとなりますが、そこまでいかななくても筋トレをやめると筋肉が落ちてしまい、運動するときうま

く身体を動かさせません。民主主義のしなやかさも同様です。常に鍛え、しなやかさを維持することで、民主主義のプロセスに参加することが楽になり、国際秩序の安定にもつながります。鍛えるとは、小さなコミュニティの中で自分の意見を伝え意見の異なる相手と対話を行うことです。お互いの価値観や考えをぶつけ合い、時には妥協し、時には駆け引きをしながら時間をかけて合意をしていくことです。この時私たちは楽しさや安心感も、難しさや苦しさも、同時に体験します。これによってしなやかさは保たれると考えます。

社会に正解はありません。しかし、間違えたらいつでもやり直しができるような体制を整えることは大事です。そのためにもよりしなやかで強靱な民主主義をつくりあげましょう！

〈機関紙「日本再生」No.513の内容〉

2022/02/01 発行

敵と味方を峻別する「分かりやすい」政治から他者理解(エンパシー)と相互尊重(リスペクト)の政治文化へ ● 4-10 面/コラム/一灯照隅 ● 11-13 面寄稿/労働組合活動と選挙 ● 14-17 面/学習ノート/資本主義批判の新地平 ● 18-20 面/インタビュー/私が、あなたの声になる/山岸一生・衆院議員 ● 21-24 面/インタビュー/地方創生から七年を振り返る、一極集中システムの延命か脱却か/佐無田光・金沢大学教授

※ 機関紙「日本再生」のご購読をご希望の方は下記の連絡先までご連絡ください。

一緒に
考えてほしいこと

- ・民主主義と聞いてあなたが思い浮かべることは何ですか？
- ・「正解」がないことに直面した時、あなたは何を重視しますか？

【連絡先】「がんばろう、日本！国民協議会」埼玉読者会

住所:埼玉県越谷市大里 226-1 白川ひでつぐ事務所
担当:吉田理子
ganbarou.r.a.saitama@gmail.com

がんばろう、日本！HP 埼玉読者会 note



がんばろう、日本！国民協議会は、「国民主権の発展」「人づくり」「がんばる日本と日本人を回復する国民運動」「自由・民主」東アジアの社会的リーダー層のネットワーク構築および日米同盟の再定義を目的として活動している団体です。機関紙「日本再生」および各種資料の発行や、例会、定例講演会などの開催、また国民的課題、地域的課題への取り組みなどを行っています。